



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryoqokusho/>

令和7年4月30日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



“ミスショット”と“リカバリーショット”

校長 山崎 隆

4月13日（日本時間で14日）、アメリカジョージア州のオーガスタナショナルゴルフクラブで、イギリスのローリー・マキロイ選手がマスターズトーナメントを制し、世界四大メジャー大会ですべて優勝する「生涯グランドスラム」を達成しました。これは、今までに5人しか成し遂げていない偉業で、マキロイ選手はタイガー・ウッズ選手以来の6人目となります。大会は4日間行われ、マキロイ選手は通算277回ボールを打ったことになりますが、思うような結果にならずにコースを外れてしまったり池に落ちてしまったりした「ミスショット」もいくつかありました。しかし、そのたびに気持ちを切らさず冷静にミス挽回する「リカバリーショット」を放ち、優勝を引き寄せました。

私は、この快挙に、ある先輩の話を思い出しました。その先輩は、体育の指導について熱心に勉強をされている方で、ある体育の勉強会で「子供の頃の自分は運動が得意でプロ野球選手やオリンピック選手になる夢をもっていた。だから、教師になってからも体育の時間に運動が苦手な子の気持ちをあまり考えずに意欲を失ってしまうような言葉を掛けてしまったり、運動の得意不得意で評価してしまっていた。自分の一言で体育が嫌いになった子もいたかもしれない。」としみじみと話をされていました。そして、あるとき耳にした『ミスショットが問題なのではなく、大事なのはリカバリーショットである』という言葉に勇気づけられて、「これからは体育が好きな子供を一人でも多く育てたい。体育が苦手な子供たちが楽しく取り組める授業を工夫しよう。」と、自分が冒してきたミスを少しでも取り返さなければならない、今こそ子供たちのためにリカバリーショットを放たなければならないと決意を新たにしたということです。

この言葉は、マキロイ選手が優勝したマスターズを最多優勝（6回）し、生涯グランドスラムも成し遂げているゴルフの帝王とよばれるジャック・ニクラウスの言葉です。ニクラウスの言葉は「プロだからミスショットは少ない。しかしミスショットをしてもスコアが安定しているのは、リカバリーショットが確実だからである。」と続きます。

帝王ジャック・ニクラウスの言葉を借りれば、私たち教師は教育のプロです。しかし、子供たちの教育を完璧に行っているかという胸を張ってそうではなかなか言えません。常に悩みながら試行錯誤しながら、子供たちがよりよく成長するために日々いろいろな手だてを考え、取り組んでいます。保護者の皆様も同様なのではないでしょうか。子供は一人一人違いますし、日々の様子も変わります。何よりも一人一人意思をもった人間です。人を育てることはゴルフボールをコントロールするようにはいきません。私自身、これまでの教師人生を振り返ってみますと、たくさんの失敗やミスがあり、保護者の皆様に助けていただいた経験が多くあります。今後の学校経営においても、時にうまくいかない

ことや至らない点があると思いますが、そのようなときは皆様と連携しながらしっかり「リカバリーショット」を放っていかねばならないと考えます。私たち両国小学校の職員一同は、これからも子供たちの様子をよく見ながら子供たちの気持ちに寄り添って教育活動を進めてまいります。保護者・地域の皆様には、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

